平成２７年６月議会　一般質問　梅原　和喜

登壇日：平成２７年６月２６日(金)　１３時～

質問１「第１８回統一地方選挙について」

（１）　　総括と今後の取り組み

今年４月に施行された第１８回統一地方選挙では、県議会議員選挙の投票率は、４７．２％、市議会議員選挙は４５．７７％と過去最低の投票率であった。今回の選挙結果を踏まえて、広報活動、投開票の人員配置は適切であったのか、開票作業での課題等、総括と今

後の取り組みについて伺いたい。

｛回答｝

選挙期日や期日前投票所の位置等を掲載した「選挙豆知識」、市のホームページに掲載してインターネット上からも閲覧可能にする等、新しい取り組みも行った.又　、投票所内のレイアウトや事務の流れの見直しも含め適切、効率的な人員配置に努めた。市議会議員選挙においては、諫早市から自動読取分類機を４台借用し、作業の迅速化にも努めた。市民の皆さんが、選挙を通して、政治や社会に参加しやすい環境を整える為、今後も正確かつ円滑な選挙事務の管理執行に努めていく。

（２）「投票率低下への対策」

投票率結果については、各世代毎に取りまとめをしていると思うが、特に２０代、３０代等の若者の投票行動の対策が今後重要視されると思う。

今国会で改正公職選挙法が審議可決され選挙権年齢が１８歳以上に引き下げられることとなった。

若者の投票行動は、街づくりの参加にもつながることから、投票率低下を受けて今後、どのような対策を講じられていくのか。

{回答}

若者世代の投票率向上については全国の選挙管理委員会の共通課題である。来年の参議院選挙では現在の高校２年生が選挙に参加する事になる。高校生を含む児童、生徒への啓発及び新有権者への啓発を行い、、市内大学での期日前投票も今後検討して行く。

質問２「伊王島大橋の管理について」

（１）強風時の安全対策と機器の保守管理

平成２３年３月に開通した伊王島大橋の強風時の歩行者、車両の安全対策、及び伊王島大橋に設置している風速計、風向計の定期点検、電光掲示板など、機器類の保守管理については、どのような方法で実施されているのか。

{回答}

橋の中央に設置した風速計で計測した風速をもとに交通規制をしている。風速が１５ｍを超えると二輪車が通行止め、２０ｍ以上で歩行者も通行止め、２５ｍ以上では全面通行止めの措置を行っている。
風速計、風向計、電光表示板は開通後故障はしていない。橋には転落を防止する為、歩道の海側に高さ１．１ｍ、車道の海側に１ｍの高欄が、国の設置基準に基づき設置されている。
「要望」風速計、電光表示板などの機器類は強風時の安全対策そして人命に関する事であるので定期的な精度確認を実施して欲しい。

質問３　文化観光行政について

（１）クルーズ客船増加に伴う受入対策

　　クルーズ客船の入港数は昨年７５隻と過去最高であり、今年も１００隻を超える事も予定されている。長崎の世界遺産候補が正式登録されると世界中から今まで以上に長崎の街が脚光を浴びる事になる。

大型クルーズ船には１隻に平均３，０００人規模のお客様が乗船をされているが、客船増加に伴う出入国審査などの受入対策は適切に行われているのか。

又、歓迎セレモニー、出国セレモニーも長崎をアピールするためにも趣向を凝らした演出が求められている。クルーズ客船増加に伴う受入対策について伺いたい。

｛回答｝

中国、台湾など東アジアを中心としたクルーズが増加しており、今年は１３０隻を超える入港が予定されている。松ヶ枝埠頭では第一、第二国際ターミナルに全国トップクラスの２０ブースの出入国審査体制を整備している。又、本年１月から入国審査が簡素化され２，０００人規模の入国審査はこれまでの半分の１時間半に収まっている。歓迎セレモニー等は、会員７団体、賛助会員１７団体で構成する長崎港クルーズ客船受入委員会において対応している。その他にも官民連携して、無線ＬＡＮの整備、免税店拡充等の受入環境

整備を行って行く。

（２） 体験型観光の推進

　かもめ広場では県外からの修学旅行生を対象に龍踊りの体験が、牧島地区、琴海地区ではペーロン体験が行われている。体験型観光を経験した修学旅行生が長崎での体験を思い起し、再び長崎を訪れるためには今後も体験型観光は継続して行くべきと考える。今後の推進計画は。

｛回答｝

ペーロン体験には年間約２万人が龍踊体験には約４，３００人が参加している。この他にも長崎ペンギン水族館のバックヤードツアー、長崎ガラスの吹きガラス体験、長崎ちゃんぽん作り体験等、長崎ならではのプログラムを各種用意している。平成２６年度実績は５７種類の体験プログラムに、２，４９９校、２４７，３０８人の修学旅行生が参加している。

今後の取組として世界遺産に関連した、池島炭鉱体験や外海地区の教会を組み合わせるなど、新たな魅力あ

るプログラムを整備し、更なる修学旅行者の満足度向上を図っていく。

（３）伝統文化の次世代への継承

長崎には長年地域で大事に守られ次の世代に受け継がれている伝統文化がある。「長崎くんち」、「郷くんち」、「ペーロン競漕」、「ハタ上げ」がそれに代表されるが、近年、少子高齢化が進む中、伝統文化を受け継いでいく若者が減少し、伝統文化の保存継承が大変難しくなってきている。

運営方法、継承の在り方はもはや１地域では解決できない。資金面も含め、長崎市も危機感を共有し地域と一体なって進むべきと考えるが市の計画は。

｛回答｝

夏の「長崎ペーロン選手権大会」には１，５００万円を交付し、「長崎くんち」には本年度の踊り町７ケ町に４，２４０万円を補助している。

又、本年第４０回の記念大会を行う長崎郷土芸能大会

には７１８万円の補助を行っている。
市としては、各種取組を通じて各地区の保存会と共に伝統文化の保存、継承を図り、途切れのない支援を行い、地域の活性化に繋げて行く。

質問４　教育行政について

（１）学力向上策

平成２６年度全国学力・学習状況調査結果からみてとれる良好な教科、課題となった教科、或いは生活環境、学習環境の結果を今後の学力向上策に繋げて行くことが肝要である。学力向上に向けての具体的な対策は。

｛回答｝

平均正答率は中学校数学では全国を上回り、全体的には下回る結果となっている。学力向上には授業の充実が最も重要である。今まで以上に教員が互いに授業を公開し合い、切磋琢磨しながら、スキルアップに努めるよう指導を行うとともに、指導主事を積極的に派

遣し、研修の中身を一層充実させ、市全体の教員の指導力向上に努めて行く。

（２）教育研究所の取り組み

学校現場では不登校や特別な支援を必要とする児童生徒への対応等多くの課題を抱えている。一方、電子黒板やタブレット端末など新たな情報機器が導入され授業での効果的な活用が期待されている中で教職員の皆さんには子どもたちが安心して学校生活を送るために自信を持って授業を進めて欲しいと思う。

教育研究所は学校、生徒達、先生方を支援する役割があろうかと思うが、どのような取り組みを進めているのか。

｛回答｝

　教育相談として、いじめ・不登校などの問題の相談、不登校の子どもたちが学校復帰を目指して通う

適応指導教室を運営している。又、教育現場の様々な課題に対応するため小中学校による実践研究を行っている。平成２７年度は、ＩＣＴ機器の有効を活用す

る班、小学校における外国語活動を中学校の先生とともに先進的に研究する班を編成し、小中の連携も含めた共同研究を行っている。今後も個々の子どもに応じたきめ細やかな対応や情報化・国際化など時代の要請に対応した教育活動の推進に努めていく。

質問５　職員力の向上について

（１）健康診断の受診状況

市役所職員が生き生きと、明るい職場環境の中で業務を進めて行く上で、一番大切なのは職員の健康である。生活習慣病防止、がんなどの早期発見には健康診断の受診が大切であるが、受診状況はどうなっているのか。

｛回答｝

全職員に対し、毎年度、定期健康診断を原則受診させている。更に長時間の時間外勤務従事者に対する健康診断、特定の業務を行なう職員に対する腰部健診、皮膚健診、ＶＤＴ健診も実施している。

（２）始終業の管理

業務を円滑に進めて行くためには、遅刻をしない、会議には遅れないなど時間を順守する事は社会人としては当然であるが、業務開始直前に当庁する職員も散見される。始終業の管理はどのように行っているのか。

回答　通常勤務の場合は８時４５分から午後５時３０分までとなっている。始終業の管理は平成２３年度から庶務人事システムを全庁的に導入し、適正な出退勤の管理を行っている。今後も、地方公務員法の職務専念義務や信用失墜行為の禁止などの服務に関する規定の趣旨を踏まえながら、公務員、社会人としての職員の意識向上を図ると共に、庶務人事システムや所属長による適正な出退勤の管理に努めて行く。

質問６　道路行政について

(１)国道４９９号拡幅工事の進捗状況

平山町～布巻町までの栄上校区の１，３キロ区間は平成２７年度完成目標であり、蚊焼町から黒浜町までの

２．１キロの岳路工区は平成２８年度目標で工事が進められている。

栄上工区は地権者が多く土地取得が困難な状況であると聞き及んでいる。現在の状況は。

回答　栄上工区は土地取得に難航しており、当初予定から遅れ、平成３０年度完成予定。岳路工区は平成２８年度完成予定。

（２）長崎外環状線の早期着工への取り組み

長崎外環状線都市計画路線についてはこれまでの新戸町、南柳田間から新戸町、江川町間に変更される事となった。

都市計画から既に４０年を経過した長崎外環状線の早期着工への取り組みは。

｛回答｝

　長崎外環状線は国道４９９号の交通渋滞の緩和や造船業などの産業振興、観光振興など地域の活性化に大きく貢献する事が期待される。これまでの鹿尾ダムの東側を通るルートに変更し、国道４９９号との接続

箇所を江川町交差点に変更した。また、車線数についても４車線から２車線へ見直した。

地元自治会への説明会も実施しており、今後も地元の方々、市議会、運輸、経済団体と一体となって整備促進について長崎県、県議会に働きかけを行っていく。